

■After 建築名称 下段: 英語名	土田の民家 Renovation of Minka with a ceramic artist's studio		
建築用途	大分類 住居	小分類 住宅	
改修設計者	raumus	URL	
所在地	岡山県岡山市	Google Map	
改修年	2021年		
建築規模	125㎡		
掲載書誌	TJひろしま2022年4月号、住まいの設計 2023年2月号		概要 after 伝統的な形式の民家を、陶芸家と料理家の夫婦、幼い子供たち4人家族の住宅に改修。
賞・選定	第25回 ぐっとずっと。エネルギー住宅コンテストリフォーム部門最優秀賞		
資料・その他	URL		
■Before 建築名称	民家		
建築用途	大分類 住居	小分類 住宅	
■写真 Before リノベーション前の外観	After 広間より、左側に日常のスペース、右側に主人のアトリエと展示スペースが見える	After 土間のアトリエを見る、陶芸家である主人の制作スペースと、棚に展示された作品が並ぶ。	
			
撮影者 竹田 真志 提供者	撮影者 山内 紀人 提供者	撮影者 山内 紀人 提供者	
■リノベーション内容	キーワード 用途変更	内容 築70年程の農家を起源とした伝統的な形式のこの民家は、数度の増築や改修によって少し窮屈な印象の空間になっていた。そこでこの地域の民家の持つおらかな雰囲気を取り戻し、民家の在り方を継承した上で、現代的なライフスタイルに合うように大きく間取りを変更し、古い、新しいという枠組みを超えて、現代における民家の形をこの家族を支える生活の器として蘇らせたいと考えた。 夫婦は仕事上の来客が多く、日々の生活と仕事が連続した暮らしをしていた。陶芸家である夫は、日中はアトリエで制作を行い、作品を直接見にくる来客の対応がある。妻は人を集め、大勢にご飯を振る舞う機会も多い。 そこで制作や来客のスペースである土間・畳間、日中の生活スペースである広間、就寝する寝間の3つのスペースとして再構成した。土間と広間部分は3枚引戸で仕切られているが、その建具を開け放つと50畳ほどの一室空間となる。屋根形状に沿った寄棟形の天井は頂部で4m程あり、非常に大きな空間である。 住宅としての機能を越えた、仕事場のようでもあり、地域の集まりの場にもなるような自由で新しい未来の住まいのかたちを考えた。	
■備考	No168	関連資料画像	
■作成者 氏名/所属	竹田 真志 / raumus	作成協力	